

森英一

昭和十年

8 「爐辺夜話・酒仙葛西善藏氏」 古木鉄太郎

- 23 短歌「早春七首」武田大喜吉
 20 短歌「いろいろ端」八田博一
 17 短歌「恋に思案」高松昭雄
 15 短歌「早春七首」武田大喜吉
 13 「春雨」を唄ふ女「宮本知一」
 13 「終熄したダダ」高橋新吉
 11 「文芸時論・民謡の大衆性」松本あき正
 15 「文壇評論・天才直木の分析」森四郎
 17 「街で拾った話」みね・暉夫
 20 「文芸作家一問一答（対談）」記者・片岡鉄兵
 22 短篇「思春期」高山虚夫
 22 「文芸作家一問一答（対談）」記者・宮地嘉六
 23 短篇「花」尾原一雄
 23 「元禄快拳録」斯波南叟 10・11 168回完
 24 童話「小石のみちづれ」浜田勝次郎
 27 「文士と家―生活内証話―」狩野竹生 3・8 4回完
 短歌「早春の浜辺」瀬尾記美男
 3 短篇「月夜」杜田道子
 1 「春宵漫談・或る畸人の話」江口隼人
 3 短篇「春のセレーナーデ」太田静思
 3 童話「一寸見た先生の足」しら江・としを 17日完
 6 「河北潟附近」竹田幽生
 8 川柳「『流線形』の春」川柳屋うみ三
 10 童話「猿に育てられた山男の話」浜田勝次郎
 10 短歌「児等とともに」階戸二郎
 15 短篇「故郷の歌」宮本知一
 15 詩「貧乏人の冬」府中伝一
 17 「川柳を愛せよ」樋口うみ三
 17 短歌「愛惜譜」八田博一
 19 短篇「いろいろ端」八田博一
 20 短歌「恋に思案」高松昭雄
 23 短歌「早春七首」武田大喜吉
 27 詩「一つの芽」高浜清之介
 27 短篇「頼家の死」高松昭雄
 27 短篇「女心」高山虚夫
 27 詩「弥生の歌」中谷芙美子
 27 詩「夜」高松昭雄
 27 詩「草の根」府中伝一
 29 短歌「近詠」林春光
 29 短篇「遁走」佐々南三
 29 詩「花一輪」高松昭雄
 29 詩「まぼろしの恋」よしとも
 4 3 短篇「銀杏」末松義広 5日完
 3 詩「傷心」松原鉄次
 俳句「句」久流美
 詩「朝の港」府中伝一
 短歌「歌を集めて」徳山裕三
 5 詩「波に哭く」高松昭雄
 5 「革新的な開拓から無言の刻苦へ―与謝野寛氏の文学的業績―」新居格
 7 短篇「ある描写」中谷武雄
 7 童話「久夫の話」今川俊一 5・5 5回完
 10 「能動精神問題の一断截面」溝口勇夫
 12 「詩の鑑賞について―味のあるドライデン氏の言葉―」山本和夫
 17 「デュコラと久米正雄の文学」森四郎
 17 詩「熱」I・GOTO
 19 「僕達のテレーズ―芸妓サメ子と友人に―」多摩川清 24日完
 川柳「夜ざくら」柳之助
 短歌「春日抄」小竹悠々

- 〃 「私の雑記帳―貧しい詩篇をかき集めて―」 山村幸一
 24 俳句「花五句」林春光
 〃 「花ばんぼり」青子記
 5 1 「政治・外交陣に躍る欧米の文人たち」H・O・H
 〃 短篇「夢」竹中一峰
 〃 「抒情詩」篇「嵯峨茂路」
 〃 「四月と生活」八田博一
 〃 「温泉純情詩」おか・みさを
 3 「人間頼朝の死」尾原一雄
 〃 「旅愁(歌稿)」八田博一
 〃 「凡庸の裡に」久流美
 8 「天折を悼む」安川久流美
 10 「彼女の日記」多摩川清
 22 「菜摘籠」青子
 〃 「短歌に於ける宗教性」高塚存信
 〃 「春愁拾遺(歌稿)」八田博一
 〃 「古代人の釣」中村星湖
 24 短篇「或日のお岩」杉山英一
 〃 短歌「安宅を訪ふ」中谷芳路
 〃 短歌「土手の白楊」安田秋夫
 29 「官命出張旅行」内田百閒
 〃 詩「五月の病室」石原亮
 〃 詩「陽気な唄」松村又一
 〃 「酔緑瓢瓢」KN生
 6 5 「最近心をひかれた歌とその鑑賞」を読む」高塚存信
 〃 川柳「酒呑む」柳之助
 〃 「趣味と生活」久流美
 〃 「灯りの下の彼女たち」窪川稲子
- 7 「消閑雑話―故石崎俊一君のこと―」鈴見香芽二
 〃 詩「思ひ出」福田路美
 〃 「私の家賃」久流美生
 10 「文壇展望―第二期の黎明期―」江口渙
 〃 「投稿の想出―嬉しかった北陸新聞時代の事―」室生犀星
 〃 「双児」加能作次郎
 11 短歌「初夏晚景」太田静思
 19 短歌「近詠」野村鶴遊
 〃 「北陸詩人の横顔―小松の近きに住む―」KN生
 〃 短歌「哀恋歌」竹本柊雨
 21 「縁談拒絶法」多摩川清
 〃 「城下鱗片」安川久流美
 〃 短歌「山陰の旅にて」毛藤松声居
 26 「お城の桜」水上青子
 28 「故郷をおもふ」山村幸一
 〃 短歌「和倉に遊ぶ」中谷武雄
 〃 「近詠」林春光
 〃 「地下の母に」宮本知一
 7 3 詩「悔ひ」今井俊一郎
 5 「文芸時評・傑作日本」江口渙
 〃 短歌「林春光」
 〃 詩「郷愁」福田路美
 7 「蒼白き天」中村武羅夫 11・20 128回完
 8 「恋愛気球」近江帆三 12・27 200回完
 10 「小説になりさうな金沢に就て」噴飯生
 〃 詩「君よ」福田路美
 〃 「詩三篇」太田静思
 12 詩「私窠子」栗山博

- 19 「モスクワで逢ったバルビュスーその他の印象を語る」秋田雨
雀
- 「犬」戸川貞雄
- 「歌と句・所感」山下喬太郎
- 「山椒魚の子」多摩川清 26日完
- 「アナ君を許す」むら・てつち
- 「雑記帳」辞「牧久雄
- 「道場と劇場」中村星湖
- 28 童話「大笑ひした山彦」みね・としみ 8・25 5回完
- 31 「コント・忠実な店員」貴司山治
- 「余情の草人」安川久流美
- 8 2 「めがろば期の不幸」牧散虫
- 詩「エチオピアの戦斗法」小笠原啓介
- 「短歌「今の姿」中村武雄
- 7 「帆船」山村幸一
- 「ねんねこ蚊帳」中条葉留子
- 9 「詩に於ける象徴的傾向の中から」小笠原啓介
- 詩「宿命譜」越野常一
- 「山中温泉雑詠」沖谷人三
- 「川柳「夏の夜」柳之助
- 詩「黒部の夏―竹内勝太郎君の霊に捧ぐ―」西川喜一
- 14 「釣橋」中谷武雄
- 「雑記五篇」太田静思
- 「詩と散文の問題」小笠原啓介
- 16 「地方主義促進の―方法」中村星湖
- 「車前草抄」安田秋夫
- 「山への感激」森四郎
- 23 「懇話会の実態」新居格
- 「髪―去る者をしたって」涙花
- 「夏日漫談・おでん屋」KN生
- 28 詩「余りにも若き母」高松昭雄
- 「詩の韻律問題」小笠原啓介
- 詩「懷古」中谷武雄
- 「随想「巷説盲信と文化」青野季吉
- 30 詩「いのちはいのち同志で―東好美氏におくる―」山村幸一
- 「晩夏随想二―いのちの女」久流美
- 「医王山に登る」小竹悠々
- 9 1 童話「隣村の子」小川未明
- 4 「私の歌舞伎」渥美清太郎
- 「離別」中谷武雄
- 詩「夜霧」西川喜一
- 6 「秋立つ頃」勝木美穂
- 「諷刺詩に就て―小熊秀雄詩集の感想―」小笠原啓介
- 8 童話「カミシバキノヲヂサン」小川未明
- 13 「朝」中条葉留子
- 「文芸時評・芥川賞その他」青野季吉
- 詩・短歌・散文「打和長江
- 15 童話「死んでしまったトンボ」山村幸一
- 21 「昔を今に」相馬御風 27日完
- 22 「所謂現実主義」鈴見香芽二 27日完
- 27 童話「ちいやの水車」中本義雄
- 詩「秋の手帖」山村幸
- 「バイロン伝を読む―鶴見祐輔氏の新著―」XYZ
- 2 詩「花と詩人」高松昭雄
- 4 「立秋の旅」宮腰秋太郎
- 短歌「篠原遊歩」林春光

- 詩「我が嘆き」高松昭雄
 6 童話「赤とんぼと石地蔵」きや・よさく
 9 短篇「駄引」多摩川清 25日 5回完
 詩「貧しきを歌ふ」嵯峨茂路
 鈴虫 中村星湖 11日完
 11 「たての花」新居格
 13 童話「銀杏の葉」小川未明
 16 「角を立てるな」安川久流美
 詩「海」寿々通支
 20 童話「いちぢくの実」きや・よさく
 21 「蚤とり武士」国枝史郎 11・4・27 254回完
 23 「伸びる鼻」安川久流美
 詩「月が出て」三木三郎
 25 「出稼ぎから帰る」高山虚夫
 童話「階級意識」安川久流美
 27 童話「酒買ひの話」みね・一里
 30 「オンライン婆さんの思ひ出」日高只一
 11 「失はれ行く自我と個性」江口渙
 1 「月に歩く」青子
 3 「秋」中条葉留子
 童話「又、酒買ひの話」みね・一里 10日完
 6 童話「芳ちゃんの招魂祭」きや・よさく
 「ある男の幻想」森四郎 8日完
 「日記より」中谷武雄
 15 詩「厭世主義」高松昭雄
 詩「街の散文・香林坊は明朗」丹羽秋太郎
 詩「秋深々」安川久流美
 詩「生活線」荒木立帆
- 詩「鬍髯の唄」高松昭雄
 17 童話「梟のお母さん」みね・としを
 20 「初冬の感懐」山村幸一
 短歌「秋たけて」嵯峨荒路
 発句鈔 久流美
 詩「湯涌温泉行」山思郎
 21 「貞操日誌」楠田敏郎 11・7・17 225回完
 22 「大トルストイ二十五祭」江口渙
 23 「短篇詩片」麻野京
 童話「古釘」みね・すけよし 12・1完
 27 「平野の印象—小笠原啓介君の近業—」打和長江
 「北風・時雨・ねぶか」高松昭雄
 詩「全快祝宴」山村幸一
 29 「作家クラブ」に就て」江口渙
 詩「秋」中谷武雄
 童話「断片」高松昭雄
 12 「文化団体の動き」戸坂潤
 8 童話「びっくり箱」松田母来居
 11 「金沢の芸妓と女給のサービス」母来居主人 13日完
 「遺書でない遺書」中谷武雄
 13 「一九三六年の世界文壇回顧」H・O・H生 20日完
 18 「極月旅行記」青子生
 傘ざらい抄 安川久流美
 20 詩「心弱きペシミストの唄」高松昭雄
 22 「北陸詩壇の回顧」小笠原啓介
 童話「朝の公園」小川未明
 25 「極月静閑の集ひ」青子記
 師走の灯 安川久流美

- 27 「冬を愛する心」新居格
「あからさまの記―わが友に―」高山虚夫

昭和十一年

- 1 1 短歌「天地の愛」柳原燐子
川柳「創作」安川久流美
「文壇の新人―私の思ひ出すまゝに―」新居格
俳句「初富士」長谷川かな女
短歌「新年五章」佐々木信綱
講談「狂歌の徳（三俵法師物語）」神田伯治
童話「泥神さま」横山美智子
3 短歌「新春雑詠」吉井勇
俳句「新春吟」青木月斗
4 小説「青春譜」楠礼雄
5 小説「笑ふ彫像」三角寛
6 童話「葉のついた密柑」小川未明
「新春抄」柳原燐子
「股旅やくざ・歳の瀬」村松梢風
8 「時計のない国」安川久流美
10 「諷刺文学への待望」江口渙
短歌「元旦譜」宮本知一
15 「故人長江を思ふ―島清『地上』の推薦者」江南三郎
詩「冬夜の幻想」牧久雄
「おらが正月」安川久流美
17 「道中奴島田」長田幹彦 19日 3回完
「松過ぎて」安川久流美
19 童話「古ぼけた鐘」白江としを 26日完

- 22 詩「鴉を喰った男」牧久雄
「断片・深川の消印」久流美生
「枯野」麻野京
29 「雪にこもる」太田静思
詩「私？」石路孝美
「俳諧の冬」中島花什
31 川柳「一月の名残」安川久流美
「父におくる詩」山村幸一
「あの日まで」I・M生
「東京」中谷武雄
2 童話「めだかと子供」みね・一里
5 「爐辺雜記」水上青子
「断片・河豚と選挙」安川久流美
「詩二篇」麻野京
短歌「冬の公園にて」武田太喜吉
「心に捧ぐ詩」井口鋭
7 詩「花びら」中谷武雄
8 童話「寒修行と三吉」みね・としみ
9 川柳「紀元節」水上青子
14 詩「氷柱東窓へ」小笠原啓介
詩「弔辞」麻野京
19 「尼僧」宮本知一
詩「絶食以降」長元正
詩「瀉の聴覚」中谷武雄
21 「効果的生活」丹羽秋太郎
「此頃うたふ」中谷武雄
川柳「海鳴」安川久流美
詩「君思ふ」長谷辰彦

16日完

- 23 〃 「詩と浪漫主義―純粹詩の立場から―」 井家鋭
 童話「落とした長靴」 みね・をさむ 3・1完
 26 〃 「月と雪」 宮本知一
 〃 「露の臺の幻影」 安川久流美
 28 〃 「映画至上主義者の日記」 小幡義夫
 〃 「大金沢夢想園」 水野長零
 〃 「春のいたづら」 白川一朗
 〃 「吹雪」 西丘敏夫
 〃 「恋愛雑感」 中谷武雄
 3 4 「金沢詩人諸氏に呈す」 井家鋭
 6 「個性を尊重せよ―のびぬ郷土柳壇作句―」 安川久流美
 〃 「嵐」 西丘敏夫
 8 童話「春はまだ？」 今川俊一
 11 「柳壇雑記帳」 安川久流美
 〃 創作「雪夜の仮装」 中谷武雄
 〃 「薄暮」 牧久雄
 13 〃 「鬚」 白川一朗
 〃 「柳想の和句」 安川久流美
 〃 詩「童話」 西丘敏夫
 〃 詩「我が願望」 北野白水
 〃 「冬の海」 宮本知一
 15 童話「穴山」 みね・一里
 18 「文学への絶望」 武田省二郎
 20 「正しき詩運動へ―当局に希望する事ども―」 山村幸一
 〃 「柳壇随想」 各屋敷
 25 「横光利一氏の近作について」 森四郎
 27 「作家にのぞむ」 中谷武雄
 〃 「詩三篇」 長谷辰雄
- 〃 「何処へ行く」 高山虚夫
 〃 詩「冬におののく」 越野常一
 〃 詩「忘我の曲」 井家鋭
 4 1 「南アメリカ文学の新動向」 H・O・H
 〃 詩「夢」 西丘敏夫
 〃 詩「聖城」 林春光
 〃 詩「朝」 清水次郎
 〃 詩「ボロを纏った詩」 根保雅郎
 〃 詩「花葩を飾って」 神野智
 〃 詩「雪脂の匂ひ」 牧久雄
 2 「淋しき夜」 小島四郎
 〃 詩「弔旗」 西丘敏夫
 3 「漢詩の朗吟」 日夏耿之介
 〃 詩「去りし夢」 茶谷与左久
 8 「?????―読めば解る事―」 小幡義夫
 〃 「深谷へ行く」 小島四郎
 〃 「北毎柳壇の今昔」 前田義風子
 〃 川柳「これも春」 安川久流美
 10 「黒縁の写真―逝ける佐川ちかの霊に捧ぐ―」 打和長江
 〃 「僕の女性観」 小島四郎
 〃 「即興詩一題」 高松昭雄
 〃 詩「春暁」 牧久雄
 17 随想「改名の反対」 安川久流美
 15 「或る男の諷刺」 小幡義雄
 〃 「日本の春」 新居格
 〃 「歌と句に就て」 安川久流美
 〃 「春のねむり」 中谷武雄
 〃 短歌「朧たき春」 嵯峨茂路

- 〃 「進め！鼓手達―世の詩人達に送る―」 室野春芳
 22 「愛執」 小島四郎
 〃 詩「雪へ」 西丘敏夫
 〃 「堅魚の生氣―自らも組上の上に―」 安川久流美
 〃 詩「窓を開けて春の氣を吸はう」 室野春芳
 24 「非常時の色眼鏡―U君に送る―」 水野長零
 〃 詩「浅野川小唄」 長谷辰雄
 〃 詩「蒼白き鬼の詩」 山村幸一
 〃 川柳「春の句」 安川久流美
 26 童話「敵」 みね・暉夫 5・24 4回完
 27 詩「生活の旗」 根保雅郎
 〃 「小曲・悲しみの抒情詩」 西田勝二
 28 「幕末秘聞・怪奇連判状」 甲賀三郎 12・25 201回完
 29 「北方浪漫精神―安川久流美氏へ―」 打和長江
 〃 詩「墓標」 西田勝二
 〃 詩「来たれや来たれ屋根の上」 宅野春芳
 〃 詩「神の声墜つ」 井家鋭
 5 1 「その折々」 柳原燐子
 〃 詩「舞妓」 八田博一
 〃 詩「無題―ある方に捧ぐ―」 堀田昌子
 6 「杳い風景」 高山虚夫
 〃 詩「探險隊」 室野春芳
 〃 詩「北方浪漫」 打和長江
 〃 詩「断片」 牧久雄
 〃 詩「粘土人形」 石川恭之祐
 〃 詩「思ひ出」 南章子
 8 「僕の周囲」 山村幸一 13日完
 短歌「春愁」 嵯峨茂路

- 〃 「五月の野趣―日記より―」 牧久雄
 13 「若き修業僧の悩み」 和泉光子
 〃 詩「夜の神様」 青山久
 〃 短歌「木曾を下る」 杉山国朗
 〃 詩「茅屋札讀」 牧久雄
 〃 詩「お母さんお聞きなさい」 室野春芳
 15 川柳「雜詠」 安川久流美
 〃 詩「哀別」 水原美紀子
 〃 詩「月のない夜」 小島四郎
 20 詩「黄昏」 西田勝二
 〃 短歌「若葉山路」 嵯峨茂路
 〃 「その面影―初夏の夜のメモリズー」 小島四郎
 22 詩「春の愁」 椎森哲吾
 〃 詩「閨秀詩人出でよ―北陸の女性達へ贈る―」 牧久雄
 〃 詩「沈黙の友逝けり」 石路孝美
 27 「郷土生活の淳化」 相馬御風 29日完
 〃 川柳「雜詠」 安川久流美
 〃 詩「大氣を吸ふ」 三木雄
 6 7 童話「雨の神様」 今川俊一 7・5 4回完
 10 「民謡に対する独断的疑義」 茶谷与左久
 〃 詩「或る回想」 北野白水
 〃 「詩壇隨筆・韻律問題を繞る人たち」 打和長江
 〃 詩「発狂した男」 牧久雄
 12 「新民謡と階級」 茶谷与左久 19日完
 〃 詩「童子」 真歌朱
 〃 「湖魚海澄水―川柳・詩は何処へ行く―」 安川久流美
 〃 詩「哀傷」 小島四郎
 14 童話「大きな樫の木」 小川未明

- 19 「黒子の代書」 放散虫
 詩「敗者の妙諦」 北野白水
 川柳「ばいう」 安川久流美
 詩「我が夏来る」 牧久雄
 「ちかごろ随筆」 井家鋭
 詩「憶出」 椎森哲吾
 詩「偽善者」 高松昭雄
 詩「ノスタルジア」 小島四郎
 対談「二人で卓を囲みて」 加藤武雄・新居格 7・10 5回
 完
- 26 詩「すみなれば」 嵯峨茂路
 詩「行人」 青山久
 詩「盲想」 東美子
 詩「母へ」 冬野研
 「雪陰礼讃」 牧久雄
 「墓石に郷里の山を―天逝したT君を偲ぶ―」 安川久流美
 「漫画になる句と川柳の誤解」
 詩「炎天」 牧久雄
 詩「悲劇」 冬野研
 「ゴルキイとその影響」 青野季吉 7・8 完
 詩「俺は微物だ」 高松昭雄
 詩「不滅の春」 恵
 詩「恋人から離れるな」 高松昭雄
 詩「日蝕」 秋犀洞
 「六月の同人雑誌評」 杉山英一
 詩「生活」 水原美紀子
 詩「青い影」 木曾忍
 詩「昔、姉と呼んだ人へ」 冬野研
- 10 詩「嵐」 椎森哲吾
 「手を視る」 小西寛
 詩「砂丘」 水原美紀子
 詩「私」 冬野研
 「悪の始め(シナリオ風に)」 高松昭雄
 詩「無題」 冬野研
 「論説の意義」 安川久流美
 「作家の誇り」 島木健作
 詩「道」 冬野研
 詩「やみ」 椎森哲吾
 「矛盾の世界」 安川久流美
 「愛怨の彼岸」 入江新八 12・25 150回 完
 「ゲーテと山」 高橋健二
 詩「恐怖」 篠崎幾夫
 詩「ふるさと」 越野常一
 詩「民謡・機織娘の唄」 冬野研
 詩「或る一つの貌―水害の日に―」 西丘敏夫
 「日本民謡運動現今の問題」 三木三郎
 詩「夜の墓場」 石川修
 「島の文学」 南次夫
 童話「水泳と少年」 上律龍介 8・2 完
 「利己愛」 高松昭雄
 「すみ子の場合」 牧久雄 31日 完
 詩「想い焦れ」 茶谷与左久
 「人道主義の声」 安川久流美
 詩「月夜の幻想」 石路孝美
 詩「旅」 冬野研
 「虚無の驕」 樽崎勤 8・5 完

- 詩「蟻」布光子
 「ふるさとを諷ふ」水野長零
 「フランスコント・仮装コミュニケーション」石浜三男訳
 詩「民謡独り言」冬野研
 戯詩「鷹」冬野研
 「花水」細田源吉
 「民謡・夕ぐれ」三木三郎
 「老婆の悲嘆」高松昭雄
 「秋を待つ心」牧久雄
 詩「酒」冬野研
 「廻らぬ風車」ルネ・パサン、石浜三男訳 19日完
 詩「海港」西丘敏夫
 「オリンピック雑感」平林たい子
 童話「次の世界」みね・一里 30日 3回完
 「香具師の対話」高松昭雄
 「君が来るかと」茶谷与左久
 「若き父の感懐」島兵太郎
 短歌「石動山」小西覚
 短歌「磯山」西田加津見
 「白くない西瓜」水野長零
 「緒陽随想―故郷の人々へ捧ぐ―」工清定 9・16 3回完
 「六百万人の狂乱」江口渙
 「忘るゝ日」久流美子
 「大砲」評判記」室野春芳
 詩「二十日の前夜」各口繁
 「断片・香林坊の昔」久流美生
 「魂を求める」三木三郎
 「散文一編」高松昭雄
- 川柳「忘れ扇」久流美
 「魂を求める」三木三郎
 「詩の意義」室野春芳に与ふ」井家鋭
 「秋窓の櫓に寄せて」牧久雄
 「国境から―ふるさとの友へ―」棚木一良
 詩「落日」神野智
 詩「再び・去るひとに」井家鋭
 「初秋の雑記」小幡義夫
 戯曲「社会劇・春遠からず」田村新作
 童話「蝗」みね・俊一
 「サンプル詩・秋の恋」三木三郎
 詩「夏の夜」小島四郎
 「『どん底』の朗読批評」山形秀雄
 短歌「秋思抄」柳原白蓮
 「写真」高山虚夫
 詩「追憶二篇」棚木一良
 「文壇ダンス風景」阿羅宗慶
 詩「無題」清水次郎
 「満州食旅感」毛藤松声居
 「批評」管見―山形氏の批評に就いて―」景川盈子
 詩「秋の窓」神野智
 詩「村まつり」三木三郎
 「ソビエト短篇・便宜上の結婚」ミカエル・ゾシチェンコ、南次夫訳 9日完
 「旅の感想」小川未明
 「身辺雑話」鈴見香芽二
 「お嬢さん」中谷武雄
 詩「心臓」志摩龍夫

- // 詩「カナリヤ」高松昭雄
 9 // 「秋色鑑賞」瀬尾紀美緒
 短歌「武蔵野なる人へ」中谷武雄
 // 詩「私の弱点」高松昭雄
 14 // 「断片詩話―主として諷刺詩について―」西丘敏夫
 詩「この道」高田忍
 // 詩「秋の歌」高松昭雄
 // 「実在のない意識」井家鋭
 // 「石動山廢墟賦」安田秋夫
 16 // 「革命の朝」西丘敏夫
 「温泉消閑」山瀬利夫
 // 詩「渚を疾る」冬野研
 17 // 「十月九日午後のこと」樽崎勤
 詩「立上子詞」西丘敏夫
 21 // 「思ひついた儘」中谷武雄
 短歌「観月」松村英一
 // 「ハイキング」母来居主人
 23 // 詩「郷愁」三木三郎
 短歌「病床の歌」中谷武雄
 // 「魯迅の死を悼む」清水徳三郎
 25 // 詩「抒情小曲集」西丘敏夫 30日完
 詩「二科展覧会」元内左京
 // 詩「闇はくるめく」高田征夫
 28 // 詩「恋」茶谷与左久
 30 // 「金沢詩人詩集・読後感」谷村博武
 「惜秋賦」無名氏
 // 川柳「柿の夢」久流美
 // 短歌「山に歌ふ」中谷武雄
- // 詩「野にいざなひぬ秋のセクシオン」高田征夫
 11 // 「シナリオの一般化―文芸物流行の再省―」小幡義夫
 6 // 「晩秋に寄す」小島四郎
 // 詩「アモレット」山村幸一
 7 // 「文士は銀座がお好き」阿羅宗慶
 詩「新京」棚木一良
 // 詩「金絲雀」高松昭雄
 // 詩「あだし花」三木三郎
 11 // 「嵐の前のスペイン文学」南次夫
 詩「誰か鞭を！」西丘敏夫
 13 // 「あらうみ・読後感」前田よし久
 「句」久流美
 // 「青草市場」棚木一良
 15 // 童話「汗のはなし」みね・一里
 18 // 「あきあじ」毛藤松声居
 「大空の愛を求めて」小島四郎
 // 川柳「六句」久流美
 // 詩「落葉の歌」棚木一良
 20 // 「蛙」毛藤松声居
 詩「悦楽の盃」高松昭雄
 // 「地方主義文学私考」西丘敏夫
 21 // 「珍語探索・未亡人」P・Q・R
 「読書夜話」日夏耿之介 27日完
 // 「影を追ふて」三木三郎
 // 「逝く秋に寄す」高松昭雄
 25 // 詩「西班牙の秋」打和長江
 詩「空話」五十嵐晃
 「散文詩覚書」長谷辰雄

- 五二